



# 南十字星



## 2023年度 第10号

令和6年3月8日

クイーンズランド補習授業校

ブリスベン校

校長 直塚 裕典

E-mail: hoshuko@jc-b.com

### 四年間のご協力・ご支援に感謝申し上げます！



保護者の皆様方のご協力・ご支援のおかげで先日、卒業式を行うことができました。卒業生は、最後の学校行事である「卒業式」でしっかりと卒業証書を受け取り、新たな旅立ちとなりました。皆様方のおかげで、素晴らしい式となりました。ありがとうございました。

また、私事ではありますがこの四年間、保護者の皆様には登下校の送り迎えや行事などで、声をかけてくださり、ありがとうございました。皆様の補習校への熱い思いを知ることができ、とても有難く思いました。お世話になりました。来年度は、新しい校長先生のもとで新たな補習校が始まると思います。皆様方の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

### 卒業式での在校生からの送辞 ～在校生代表 熊野 惇志さん～



#### 送 辞 ♪ ♪ ♪

卒業生の皆さん、この度はご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、そして、今まで皆さんを支えてくれた全ての方々に、心よりお祝い申し上げます。ここに在校生を代表して、幼稚部、小学部、中学部を卒業していく皆さんに送る言葉を、心を込めて、述べさせていただきます。また、このように、在校生代表として挨拶させていただくことをとても誇りに思います。

幼稚部の皆さん、初めての補習校での一年間はどうか。今年は休み時間などで中学生と過ごす時間も増えましたね。元気な皆さんと一緒に遊ぶとこちらも元気になります。時には皆さんのエネルギーに圧倒されたことさえ、今となっては、笑みを浮かべながら思い出されます。本年度はゴールドコースト校との合同運動会があったので、皆さんはそのエネルギーを上手に使えたのではないかと思います。例えば、駆けっこは愛らしいものでした。補習校祭りでも、保護者の方々や、補習校のお兄さんやお姉さんの作ったゲームをなど楽しく遊べましたか。補習校ではこのような行事を楽しめた一年だったと思います。

小学六年生の皆さん、今日で小学校の六年間は終わります。皆さんの中には中学部に進学する人とそうでない人もいると思います。それでも、補習校で学んだことや、一緒に過ごした友達、そして何より「あきらめない」という校長先生に教えていただいた全校朝会での言葉を忘れずにこれからも頑張ってください。僕は中学部で学んでいる生徒ですが、やはり、現地校では会えない友達と会えて違った経験ができるので、とても、良かったと思います。

中学三年生の皆さん、この9年又は10間の補習校生活では楽しいことや辛いこともあったと思います。でも今日まで補習校を続けることができたというのは皆さんにとって大きな財産になると思います。僕は補習校はマラソンに似ていると思います。実際に走っている最中は本当に辛く、苦しく何度も諦めたいと思ったりします。だけど走り切った時、そこにはものすごい達成感、そして何より自分にとって大きな自信が得られると思います。その自信が皆さんを次のステップで挑戦するときの励みになるのだと思います。この長いブリスベン補習校マラソンを走り切った中学三年生の皆さん、本当に、おめでとうございます！

皆さんのこれからのご活躍を祈り、送辞とさせていただきます。



## 答 辞 ♪ ♪ ♪

夏の強い日差しもやわらぎ、秋の訪れを感じるこのよき日に、私たち幼稚部、小学 六年生、中学三年生は卒業の日を迎えました。本日、このような素晴らしい卒業式を私たちのために挙げてくださり、本当にありがとうございます。

皆様から心温まるお祝いの言葉をいただき、卒業生一同、心より感謝申しあげます。九年前、ピカピカで大きなランドセルを背負って初めて登校し、新しい先生方や友達と出会い、緊張と不安でいっぱい入学式だったことを覚えています。今は亡き祖父が買ってくれたランドセルを六年生まで大切に使いました。中学に進学したとき、補習校に通っている子に譲ったのですが、その子は今でも毎週使ってくれています。それを見ると、嬉しくなると同時に、そのランドセルを使い始めたときのことが昨日のこのように思い出されます。月日がたつのはあっと言う間で、いつの間にか自分が最高学年として卒業する日を迎えてしまいました。

思い返せば週に一度の補習校ですが、日本語での国語、算数の授業に加え、運動会や補習校まつりなど、忙しい中にもとても貴重な時間を過ごすことができました。特に今年の行事はとても心に残っています。運動会では応援や振り付けの練習に加え、ラジオ体操も間違えてはいけないと何度も練習をしました。

そして運動会当日、晴天に恵まれたゴールドコースト校のグラウンドで、クラス全員名前入りのおそろいのTシャツがとても映えていた気がします。また補習校まつりの学習発表会で今年は理科の実験を披露しました。過去の先輩たちの理科実験の発表がとても印象に残っていて、私たちがどうしてもやってみたかったからです。いつもはバラバラな私たちもこの時ばかりは一致団結して先生を説得したのは思い出深い出来事です。午後のおまつりでものために毎週授業後に残って一生懸命準備した模擬店に、たくさんの方が並んでくれた時には本当にうれしかったです。このような行事などを通して最高学年としての責任感、達成感、そして いつか自分がサポートする側に回るといった役割なども経験することができました。補習校でいろいろな経験できたのは様々な人に支えてもらったおかげです。

週末にもかかわらず、私たちの授業を準備し、教えてくださった先生方、私たちが滞りなく授業を受けられるように環境を整えて（ととのえて）くださった運営委員会、役員の皆様と保護者の皆様、補習校をさらに楽しくしてくれた友達、そしてもちろん両親です。毎週朝早くから補習校の送り迎えをしてくれたり、宿題などを手伝ってくれたりしました。時には『補習校に行きたくない』、『宿題が難しくくてできない』などと困らせたりもしましたが、様々な面でサポートしてくれ、本当にありがとうございました。こんなにたくさんの方々を支えられて、私たちは普通に、そして当たり前のように毎週通うことができたことに、心から感謝しています。

在校生の皆さん、補習校で過ごす時間を大切にしてください。宿題や漢字練習などをやりたくない日もあると思いますが、できる限り最後まで頑張ってください。正直なところ、私も何度もくじけそうになりました。特にハイスクールに通うようになってからは学校の課外活動や宿題、そしてテストなどやらなくてはならないことばかりでとても大変でした。でも頑張る甲斐はあります。日本語がもう少しだけ上手に話せるようになったり、漢字を一つだけでも覚えたりすると自分の世界がずいぶん変わると思います。もう少しやっておけばよかったと後悔しないよう頑張ってください。

これから私たちはそれぞれの進路に向かって一歩ずつ自分の足で歩いていきます。今後、大きな壁にぶつかったとしても、これまで補習校でがんばってきたという自信と自覚をもって、日本とオーストラリアを結び『かけはし』になれるようこれからも歩み続けていきたいと思っています。最後になりましたが、補習校がこれからも素晴らしい歴史を刻んでゆかれますことをお祈りし、答辞とさせていただきます。

## 【卒業式の様子より】



卒業生のみなさんが大人になったとき、どんな世界になっているのでしょうか。きっとどんな世界であろうと、みなさんがこの補習校で学んだことを必ず生かしてくれると思います。それは、みなさんや保護者の皆様方から、このプリズベン校を愛するあたたかさを私が教えていただいたからです。

みなさんの補習校卒業を心からお祝いします。そして、ありがとう！

### 帰任のご挨拶

クイーンズランド補習授業校 校長 直塚 裕典

この3月をもって日本に帰任することになりました。早いもので大好きな補習校とお別れの時がやってきました。2020年4月に赴任する予定がコロナの流行のために2020年11月にやっと皆様方のご尽力のおかげで赴任することができました。

それから、コロナ禍の中でその対応に日々追われていたのも今では思い出となっています。皆様方の温かさや、チームワークのよさを肌で感じました。この地で過ごさせていただいた日々が、本当にあっという間だったように思います。

こちらに来て感じたことは、補習校の子ども達には子どもらしさ、素直さがあるということです。保護者の方が普段から子どもと共に過ごしている時間が日本と違い、長いのではないかと感じました。学校への送り迎えを始め、親がいないと何もできない状況があることがいいのではないかと思います。

私は、全校朝会や入学式などの行事で子ども達に多くの出番をつくってきましたが、スピーチする力が素晴らしいと思いました。これはオーストラリアの教育力の成果や日頃からの家庭教育の力だと考えます。私が勤めていた日本の中学校は義務教育です。問題行動や不登校の子どもがいたら、何とかしてやりたいと思い、いろいろな方法で関わっていました。補習校は最終的に本人が来たくなければ来なくてもいい学校です。できれば、学校をやめないで済むように何とか工夫して、楽しい授業、楽しい学校にできるように考えていました。

このコロナ禍でいろいろと制限がかかる4年間だったので、子ども達には「希望」がもてる世界となるように大きなテーマとしました。最後の年には「創立30周年合同運動会」を実施しました。これ

は「ブリスベンの生徒とゴールドコーストの生徒が一つになり、大きな希望をもって飛び立ってほしい」というのが目的でした。お互いを思いやり、一緒に汗を流し、お互いの校歌を歌う光景はとても嬉しく感じました。「今の生徒たちと未来の生徒をむすぶ」ための大きな行事だったと思います。

校長としての「希望」のテーマに向かい、子ども達や先生方、そして保護者の皆様方とともに歩んできた四年間の道のりは、私にとって大きな宝物となります。できることなら、子ども達の成長を見たい気持ちですが、それは叶わない現実です。日本に帰っても、心はずっと補習校とつながっていると思います。4年間本当にありがとうございました。そして、お世話になりました。